

SGH 通信

高知県立高知西高等学校

〒780-8052 高知県高知市鴨部 2 丁目 5 番 70 号

TEL 088-844-1221/FAX 088-844-4823

H28. No.1 1 URL: <http://www.kochinet.ed.jp/nishi-h/>

2016.11.7

～1年生の取組～

第18回グローバル探究Ⅰ 大阪・海外リサーチ報告会

10月26日(水)、グローバル探究Ⅰの授業では、高知大学地域協働学部 藤岡正樹 講師をお迎えし、海外リサーチや大阪リサーチを通して明らかになったことや、それらを今後の探究活動にどのように生かそうとするのかなどについて発表をしました。



○香港リサーチ

香港では、香港和僑会(香港で起業支援等を行う日本人の互助・親懇会)やELCHK Lutheran Secondary School、城市大学、i CREMERIA(香港で人気のスイーツ店、高知の食材を使用)などを訪問し、日本製品の信用の高さや、経済展開の自由度が世界でもトップクラスであるということなどを学んできたそうです。香港の経済事情を考えると、高知の特産品が香港に進出する機会もあるということに、生徒たちは気づかされたようです。

○シンガポールリサーチ

シンガポールでは、A★STAR(科学技術研究庁)、日立アジア、旭食品の商談、ガデアソウカ-ナショナルカールなどを訪問し、政府の戦略的な経済政策のもとで各研究機関が協力し、開発を行うことが科学技術の急速な進歩に繋がっていること、差別化を図り、独自の商品価値を高めることの重要性、グローバルビジネスを展開するためにはグローバルな視点が必要不可欠であること、主体的な学びがいかに大切であるか、といったことなどを学んだようです。生徒達は、「シンガポールは国というより巨大企業」、「多民族国家ゆえに政府の強いリーダーシップのもと共存する社会ができています」といった印象を持ったそうです。

○オーストラリアリサーチ

ホームステイと姉妹校のフレンズスクールでの学校生活では、11時頃にマフィンやお菓子といった軽食を摂る“リセス”や15時の“アフタヌーンティー”といった1日5食の食文化・食事内容の違いに驚いたそうです。また、探究活動ではApple shed(リンゴの生産から販売まで手掛ける6次産業企業)やPuddleduck Vineyard(ワイナリー)、Coal River Farm(チーズ、チョコレート工場)、The Wicked Cheese Co(チーズ工場)などを訪問して、食の安全性、消費者からの信頼を得る取り組みなどを学び、一次産業に強みのある高知県の地域創生案を考えるうえで、大変参考になる探究活動となったようでした。

○台湾リサーチ

台湾では、台湾実践大学や延平高級中學、義美食品、交流協会台北事務所などを訪問し、延平高級中學では英語を使ってお互いの郷土料理について意見を交わし、理解を深めたようです。また、ホームステイを通して、台湾と日本との食文化の違いを体験したり、代表的な台湾の郷土料理の「臭豆腐」には納豆菌も使われていて、日本との共通点として発酵食文化があることなどを見出したりできたようです。義美食品訪問では、厳しい衛生管理を行うことで消費者の信頼を得ていること学び、「高知産の食も、台湾でしっかり安心安全を周知させれば受け入れられるはず」と、今後の探究活動に学んだことを生かそうとしていました。

○大阪リサーチ

大阪では、高知県大阪事務所、大阪大学、サントリー、米国総領事館を訪問してきました。高知県大阪事務所では高知県が抱える課題に対してどう取り組んでいるのか、その実践例を学び、大阪大学では地方が抱える問題点を、なぜそうなるのか、背景まで講義していただき、生徒は地方問題をうまく整理できたようでした。また、米国総領事館では英語で質問したり意見を述べたりして、総領事と交流を深めていました。サントリーで学んだ“挑戦をすることの大切さ”は、この姿勢が地域課題解決につながることに気づかされたようです。

☆藤岡正樹先生より

どれも興味深い発表で、高知県の現状を見つめ、抱えている課題が見えてきました。これらの経験を大切に、グローバルな視点を忘れず、いろいろな事を体験してください。他国との関連を考えるときは、その国の歴史を調べ、その国の成り立ちを理解すると、より深い考察ができると思います。みなさんの今後の活躍を楽しみにしています。

発表生徒の感想

○ 工夫した点は、聞いてもらえるように写真を個性的なものにしたり、伝えたいことを強調したりしました。









言いたいことが多すぎて 10 分以内にまとめるのが難しかったです。興味を持ってもらえたかな？【香港】

○ 皆が見やすいようにパワーポイントで色を使って高知の事を分かりやすく説明しました。上手くいった良かったです。【シンガポール】

～2 年生の取組～

グローバル探究Ⅱ 中間発表会

10月21日（金）各教室において、8人の大学の先生をお招きして中間発表会が行われました。各グループは発表後、内容について大学の先生方から専門家ならではの助言や指導をいただきました。今の社会では課題を解決する能力よりも、まず課題を見つけ出す能力が必要で、入念な調べ学習を行ってから仮説をたてることや、自分の興味のあることを探究するといったなど、多くの助言を頂きました。生徒は、アドバイスされたことをしっかり書きとめ、「講師の先生のアドバイスを聞いて新たな問題点も見つかり、研究の進め方がよくわかりました。今後の研究内容の充実に努めていきたいと思います。」と感想を述べていました。

高知大学 副学長 受田 浩之先生 	高知大学 国際連携推進センター長 新納 宏先生 	高知大学 地域協働学部 教授 市川 昌広先生 	高知大学 地域連携推進センター 特任講師 中島 悦子先生 
鳴門教育大学 特命教授 近森 憲助先生 	高知工科大学経済・マネジメント学群 教職課程支援センター長 中村直人先生 	高知工科大学経済・マネジメント学群 教授 上條 良夫先生 	高知工科大学経済・マネジメント学群 講師 上村 浩先生 

第16回グローバル探究Ⅱ 研究論文作成



10月28日（金）大学の先生方からの助言を基に、研究論文フローチャートの修正及び論文作成が行われました。また、この日は、アドバイザー講師にベジフルコネクトの大久保憲之さんをお迎えし、質問のあるグループが大久保さんを訪ね、論文の指導・助言を得ていました。大久保さんは、「探究する内容をすべて『見える化』・『共有化』をはかり、将来の展望が開けるようなポジティブな思考でテーマを考え、論文を仕上げていきましょう」などとアドバイスをしてくれました。

～学生TAさんより～

生徒一人一人がしっかりとした考えをもって活動していたと思います。ただ、参加への意欲は一人一人異なり、消極的な生徒も見られました。深い内容まで調べ説明の出来る生徒が各班に一人ずつはおり、それぞれの班が真面目に取り組んでいることが見てとれました。

高知工科大学 マネジメント学部 4 回生 中田大輔さん

論文を書く構成を理解していない生徒が多かった。そのため必要な情報は何か、何をどう調べてどの情報が信頼性のあるものかなど、基礎的な力をつけさせる必要があると感じました。難しいテーマでどう進めていけばいいのか分からなくなることもあると思いますが、出来る範囲で支援していきますので、わからないことがあれば気軽に聞いて下さい。

高知工科大学マネジメント学部 4 回生 高石聖也さん